

2020年度（2021年3月期） 第2四半期
連結決算の概要

2020年11月12日

株式会社 キムラタン

2020年度 第2四半期 連結決算サマリー

2020年度2Q 業績報告

売上高	2,120 百万円	(前期比 Δ 2.4%)
営業利益	Δ 289 百万円	(対前期 +1百万円)
当期純利益	Δ 274 百万円	(対前期 +25百万円)

2020年度2Q 事業概況

コロナ禍で店舗売上は減収もECが大きく伸長、保育園事業も拡大
春物在庫消化のための値引増が響き前期並みの赤字となる
損益分岐点引下げ、在庫削減、店舗とECの融合は進行
3Q以降の成果につなげ業績改善と次期の黒字化を目指す

2020年度 業績予想

売上高	4,960 百万円	(前期比 +0.9%)
営業利益	Δ 240 百万円	(対前期 +217百万円)
当期純利益	Δ 220 百万円	(対前期 +360百万円)

2020年度第2四半期 連結P/L

新型コロナウイルスの影響で店舗売上は大幅減となるがECは大幅増。保育園事業も増収
在庫消化に向けた値引増が響き前期並みの赤字となる

単位：百万円

	2019年度 2Q	2020年度 2Q	前期比(%)
売上高	2,172	2,120	△2.4
売上総利益	1,071	946	△11.7
売上総利益率	49.3%	44.6%	△4.7pt
販管費	1,362	1,236	△9.3
営業利益	△291	△289	-
営業外損益	△6	23	-
経常利益	△297	△266	-
特別損益	△3	△7	-
当期純利益	△300	△274	-

主な変動要因

売上高 前期比 △2.4%

アパレル事業 △6.8%。店舗売上減収もネット通販大幅増
その他事業 保育園5園体制となり大幅増

売上総利益率 対前期 △4.7ポイント

保育園事業の売上構成比拡大に伴い4.7ポイント減
アパレル事業 △2.2ポイント。春物消化に向け値引き増加

販売費・一般管理費 前期比 △9.3%

ネット通販伸長による物流費・配送料増加があるが
店舗休業・時間短縮に伴う人件費・店舗家賃が減少

営業外損益

雇用調整助成金等38百万円を営業外収益に計上
店舗臨時休業中の人件費7百万円を営業外費用に計上

特別損益

投資有価証券売却益、店舗閉鎖に伴う損失を計上

2020年度第2四半期 業態別売上高の分析

コロナ禍により店舗売上は減少するがECが大幅増となった

ECへの投資、店舗とECの融合を上期に実施。第3四半期以降の収益拡大につなげる

単位：百万円

	2019年度 2Q	2020年度 2Q	前期比(%)
全社合計	2,172	2,120	△2.4
■ Baby Plaza	850	722	△15.1
■ BOBSON	271	206	△24.2
■ テナント	154	96	△37.3
■ ネット通販	338	497	+47.0
■ 卸・海外	536	479	△10.7
既存アパレル合計	2,151	2,005	△6.8
■ その他	20	114	5.5倍

主な変動要因

- **Baby Plaza** 既存店売上前期比 △**14.1%**
(1Q △19.0% 2Q △8.9%)
お盆帰省のギフト需要消失。猛暑により秋物立ち上がり遅れ
- **BOBON** 既存店売上前期比 △**23.8%**
(1Q △32.1% 2Q △15.5%)
お祭り・海開き中止により季節商品の需要消失
- **テナントショップ** 既存店売上高 △**36.7%**
(1Q △47.2% 2Q △25.9%)
臨時休業となった店舗の割合大きく大幅に減少
- **ネット通販** 既存店売上高 **+46.5%**
(1Q +69.3% 2Q +18.5%)
送料無料キャンペーンにより集客増加
- **卸・海外** △**10.7%**
ブランド廃止により専門店向け大幅減
GMS販路不調。量販専門店卸は堅調に推移
- **その他**
5園体制となり保育園事業が増収

2020年度第2四半期 出退店の状況

不採算店舗36店舗閉鎖※を実施。一方で、集客見込める好立地に10店舗新規出店

	期首店舗数	出店	退店	期末店舗数
■ Baby Plaza	174	2	21	155
■ BOBSON	63	1	12	52
■ テナント	12	—	3	9
■ n.o.u.s	—	7	—	7
合計	249	10	36	223

※ 2020年度中にさらに4店舗合計40店舗の閉鎖を計画

2020年度第2四半期 連結バランスシート

夏物販売強化、秋冬物仕入抑制により前年四半期末と比較し在庫は減少に転じる

単位：百万円

	2020年 3月末	2020年 9月末	増減
総資産	2,805	2,885	79
流動資産	2,548	2,626	78
現金・預金	266	362	95
受取手形・売掛金	606	510	△96
商品及び製品	1,514	1,585	71
固定資産	257	258	1
負債	2,017	2,097	79
買掛金	377	305	△71
借入金	1,348	1,470	121
純資産	787	788	0

主な変動要因

現金・預金

コロナ対応融資、新株予約権行使により必要資金確保

受取手形・売掛金

アパレル事業の減収に伴い売掛金が減少

商品及び製品

前四半期末と比較し82百万円減少

春物在庫は微増、夏・秋物在庫は減少となる

買掛金

秋冬物仕入れ抑制に伴い減少となる

借入金

コロナ対応融資により2億35百万円調達

純資産

増減は、主として四半期純損失△2億74百万円と

増資による資本金等の増加2億78百万円による

2020年度第2四半期 連結キャッシュ・フロー計算書

在庫増加幅は大幅縮小。秋冬以降仕入抑制し通期営業CFの大幅な改善を目指す

単位：百万円

	2019年度2Q	2020年度2Q	増減
営業キャッシュ・フロー	△297	△295	2
税金等調整前四半期期純損失	△298	△269	29
減価償却費	14	3	△11
売上債権の増減（△は増加）	127	100	△27
たな卸資産の増減（△は増加）	△353	△75	277
仕入債務の増減（△は減少）	286	△71	△357
その他	△74	17	92
投資キャッシュ・フロー	37	△2	△39
財務キャッシュ・フロー	36	393	356
現金・現金同等物期末残高	206	226	19

営業キャッシュ・フロー

在庫増加幅は大幅縮小。仕入債務の減少によりキャッシュフローマイナスはほぼ前年と変わらず

投資キャッシュ・フロー

ECサイトのリニューアル、オフプライスショップの店舗設備の取得による支出と投資有価証券売却収入

財務キャッシュ・フロー

主に借入金の純増1億21百万円と新株式の発行による収入2億73百万円（純額）による

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

